細谷小学校のESD活動

＜活動の概要＞

・地域を理解し、地域のかたがたと手を取り合って地域の環境を大切にできる子の育成を目ざす。
・生活科や総合的な学習の時間を中心に教育課程を見直し、これまで以上に地域の自然や産業、人々の関わりを意識的に教育活動に組み込んだ。そうすることで、「ふるさと細谷」を愛する心が育まれ、地域の環境にも目が向けられ、「大好きだよ！緑いっぱいの細谷」と胸を張って言える子を育てる。

・活動の実際

① 命を見つめる活動（全校）

6月には、命について考える活動の一環として、毎年細谷いのちのプロジェクトを実施している。今年度は、4年生が中心となり、災害が起きたときに、自分たちが地域でどんなことができるのかを考え、危機意識をもって活動を行った。実際に通学路を歩き、どんな防災設備や施設があるのか、災害による危険箇所があるのかなどを調べ、全校児童や保護者、地域のかたに発表をし、日ごろから防災意識をもつことの大切さを訴えた。また、校区合同防災訓練を行い、消火器や煙の体験、避難所や簡易トイレの設営の仕方、防災倉庫内の非常用物品の確認などを行い、実践的に学ぶよい機会となった。

校区合同防災訓練の様子

②ふるさと細谷の自然を活かした食農教育活動（全校）

学校農園で、夏野菜や冬野菜の栽培を行う。春の畑の準備には、地域の農園ボランティアのかたの協力で耕耘・畝づくりを行った。それぞれの学年で栽培する作物を決め、種や苗から育てていった。天候不順の時期があったが、概ねどの学年も豊作であった。夏野菜を収穫した３年生は、学校で調理をしておいしく味わうことができた。

５年生は地域のかたから田んぼを借りて、総合的な学習として稲作に取り組んでいる。田植えから収穫まで、自分たちができることを行い、観察や世話をした。収穫した米は、おにぎりにして食べる予定である。学習発表会時には、手製のポスターを貼って稲わらの販売を行い、地域や保護者のかたに喜んでいただいた。

また、全校でサツマイモの栽培を行っている。毎年、たくさんの量が収穫できるため、めいめいが家に持ち帰って食べることができる。今年は、保護者の協力を得て、たてわり班活動として「やきいもの会」を開いた。いもは子どもたちが準備をし、保護者や教員が一斗缶に入れて焼いた。焼きあがると、ほくほくしたいもをおいしそうにほおばる姿が見られた。

夏野菜を調理（３年）

地域のかたと稲刈り（５年）

やきいもの会（全校）